

令和6年度 中学生の「税についての作文」受賞作品 <清水地区>

賞	学校名	学年	氏名	題名	頁
国税庁長官賞	静岡市立清水第七中学校	3	菅原 佳奈	森林の未来を描く税	2
清水税務署長賞	静岡市立由比中学校	3	福島 萌霞	小さな地域から	3
清水税務署長賞	静岡市立清水第八中学校	3	本多 玲美	私は未来の納税者	4
静岡県静岡財務事務所長賞	静岡県立清水南高等学校 中部	1	清 継実	未来への税金	5
静岡市長賞	静岡市立清水小島中学校	2	稲葉 圭亮	大規模断水から学ぶ大切なもの	6
清水税務連絡協議会 会長賞	学校法人星美学園 静岡サレジオ中学校	3	伊藤 心	税金の種	7
清水納税貯蓄組合連合会 会長賞	静岡市立清水第八中学校	1	白鳥 星来	踏み出そう小さな一歩	8
清水納税貯蓄組合連合会 会長賞	静岡県立清水南高等学校 中部	1	八木橋 実寿	大好きな図書館は 税金のかたまりでした	9
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立由比中学校	2	古牧 寛平	税の歴史～平等から公平へ～	10
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	学校法人星美学園 静岡サレジオ中学校	3	池島 志来	税のサイクル	11
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	学校法人星美学園 静岡サレジオ中学校	3	杉山 珠貴	税金がない世界	12
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立由比中学校	3	寺田 梨暖	私たちの生活と税金	13
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立清水第一中学校	3	山田 悠愛	税金と私たちのつながり	14
清水納税貯蓄組合連合会 優秀賞	静岡市立清水第六中学校	3	池上 心菜	より良い社会を作るために	15

※掲載にあたり、一部の誤字等を修正しています。

「森林の未来を描く税」

静岡市立清水第七中学校3年 菅原 佳奈

私の住む県は、自然条件に恵まれ、森林が六割を占める緑豊かな県だ。私は自然環境が身近にあるこの県をととても魅力的に感じている。森林は、四季の景観だけではなく、環境保全や防災、水の浄化など私たちの生活の土台を守り、重要な役割を果たす。私は、この緑多き県の森林環境が維持され、未来へ繋がってほしいと強く願う。しかし、日本の林業の現状は衰退に向かって進んでいる。従事者の高齢化、所有者不明の森林増加による手入れ不足、森林資源の産業育成が停滞するなど直面している課題は山積みだ。このままでは森林の荒廃が進行してしまい、自然生態系が崩れ、当たり前前の生活に悪影響が及んでしまう。

そこで、今年度から新しい国税として森林環境税が導入された。この税は、森林の温室効果ガス排出削減の目標の達成や山林災害を防止するための森林整備を目的としている。年間一律千円を納税することで、未来に向けて林業再生の架け橋となる税だ。千円と聞くと大きな印象ではないが、国民全体では年額約六〇〇億円の大きな税収となる。この集められた税金は、森林面積や人口および林業従事者数から算出された森林環境譲与税として都道府県と市区町村へ配分される。森林環境譲与税は先行してすでに開始されており、私の県では二〇二二年度に一億八千万円、市には二億八千万円と、とても大きな金額が配布された。この税金の用途を調べてみると、県産木材が病院や学校、空港などに使用されていることが分かった。また、市内にある観光施設「日本平夢テラス」の施設内や展望回廊にも多くの県内産ヒノキやスギが使用されていて、伐採した木が有効的に活用できていることを実感した。他県にも県の木材の良さをアピールできる良い機会だと思った。このとおり税金が公共施設に活用されて、だれもが公平・平等に恩恵を受けることができる使い道で嬉しかった。私自身、これから森林が少ない県と協働し、問題を共有することで森林資源を活用した商品開発に期待ができるのではないかと考え、興味を惹かれた。

私たちは、報道で国民に直接関わる税金ばかりに注目をする。しかし、間接的に当たり前前の生活を支える税金の用途には無関心だ。きっと未来に向かって税金の種類は増えるだろう。私は、未来を守る納税者になるために、税金の種類に関係なく税の知識を高め、目的を理解し、使い道まで確認をする。なぜなら税金に関心を持つ国民が増えれば、国全体で適正な税金を見極めることができるからだ。このように、国民の見極める力の正しさこそが未来の豊かな社会の実現へと繋がっていく。

山からは当然のように水が湧き出し、森林からは綺麗な空気が放出される。緑豊かな日本。私は願う、税金を通して森林を守り、次世代まで自然環境が保たれるようにと。

「小さな地域から」

静岡市立由比中学校3年 福島 萌霞

私が住んでいる地域には、私が生まれた頃からずっと工事が続いている場所がある。しかし、長年住んでいるにも関わらずどのような工事が行われているのかわからなかった。調べてみると、工事は今年で十九年目になり、国土交通省が総事業費四百億円を超える地滑り対策事業を行っているようだ。確かに山が多く自然が豊富な地域であるため、災害時の被害は大きいと思う。だが、このような地域は全国にいくらかでもある。なぜこの地域に国がそれほどまでお金と時間をかけるのか。私はそれを疑問に思った。

中学二年生の防災学習を思い出してみると、ある一つの考えが浮かんだ。私が住んでいる地域には、国道一号線、東名高速道路、JR東海道本線が通っている。そのため、地滑りが起こることで私たちの地域は孤立してしまい、物資などが届かない可能性があることを学んだ。このことをよく考えれば日本にとって重要である交通網が遮断されることで、日本各地に経済的、人的被害が生じてしまうのだ。そう考えると、国がお金と時間をかけてまで地滑り対策事業を行う意味が理解できた。

お金をかけているといっても、事業費には税金が使われている。税金というと教科書が無償で支給されたり、医療費の負担をしてくれたり、中学生の私が普段生活していても税金の使われ方を感じやすい。しかし、これは誰もが感じることで見える税金にすぎない。今回のように小さな地域で行われている事業は、税金が使われていることが感じづらい見えにくい税金だと思う。全国に目を向けてみれば、見えにくい税金も私たちが知らないところで必要な場所や人に行き届いている。また、地滑り対策事業が行われている付近の地区には、江戸時代からの歴史がつまった場所がある。地滑りが発生してしまえば歴史もそれを大切にしてきた地域の人の思いも一瞬で壊れてしまう。つまり税金で行われているこの事業には、歴史も人の思いも繋いでいく役割があるのだ。

税金は年齢問わず誰にでも関係があることであるが、私たちが直接税金の使い道を決めるわけではない。だからこそ、税金は私たちがつくる社会を成り立たせる上で欠かせないものだ実感することができた。規模の大きなお金を全員でつくり上げているからこそ、私たちは税金の行方を見届ける義務があると思う。日本の未来のためにも税金は身近なお金であり続けるとともに、当たり前にある支援が税金であることにありがたみを感じながら生活することが最も重要であると私は考える。

「私は未来の納税者」

静岡市立清水第八中学校3年 本多 玲美

数年前、私の中学校では教室にエアコンが設置されました。今年の夏は特に暑いので、エアコンのおかげで暑さを感じずに授業を受けることができます。また、この夏休みにはトイレが和式から洋式便座に変わる工事もあり、学校生活がさらに快適になりそうです。そのことを家族に話すと、「トイレの便器を一つ変えるのにも数十万円かかると思うよ。」と父が言いました。その時、工事などの費用が税金で支払われていることを知りました。

私たちは当たり前のように学校に通うことができます。新学期には新しい教科書を無料でもらえて、勉強するために何不自由ない環境が整えられています。それらはすべて税金がないと不可能なことです。大人たちが一生懸命働いたお金から納税してくれた上に成り立っている生活です。世界には学びたくても学べない人がたくさんいる中で、なんて幸せな生活を送ることができているのだらうと思いました。このような税金について調べていくと、法人税や所得税などいろいろな税金があることがわかりました。その中でも特に私が関わっているのは、医療費に使われる税金です。

私はアトピー性皮膚炎を患っていて、毎日薬を飲むために、定期的に病院で処方してもらっています。私の住んでいる地域では高校三年生まで医療費の自己負担額が五百円です。これは税金によって、私たちの医療費を助成してくれているからです。おかげで生活に問題なく、安心して病院に通うことができます。子育て世代にとってありがたい制度だと母は言います。しかし地域によっては、医療費の助成に偏りがあり、地域間の格差はバラバラのようです。なぜそのようなことが起こるのか調べてみると、その地域に住んでいる方の所得や、一人暮らしの高齢者の人数が影響しているということがわかりました。日本国内のどこの地域に住んでいても同じような制度が利用できるように税金を使ってもらえたら、この問題を解決できるのではないかと思います。そうすることによって、少子化の改善につながり、国民が納める税金も増えて、今よりももっと安心した医療サービスを受けることができるのではないかと考えました。

私はまだ中学三年生で大きなことはできません。しかし、公共の物を大切にすることや税に関心を持ち仕組みについて学ぶことはできます。今まで何気なく払っていた身近な消費税も、何かのために使われる大切な税金なんだと思うように意識が変わりました。これから私が大人になり、納税者となった時には、税金を義務として払うのではなく、私を育ててくれた社会へ恩返しをするつもりで納税をしたいと思います。そして、未来を担う私たちよりもっと小さい子供たちを、今の私たちが整った環境で生活させてもらえたように、納税者として支えたいと思います。

「未来への税金」

静岡県立清水南高等学校中等部1年 清 継実

私は図書館が好きだ。元々本が好き、ということもあるが、あの雰囲気や多様な本の数に心が躍るようにわくわくするからだ。

この作文のテーマを決めるにあたり、真っ先に思い浮かんだのが図書館だった。あれだけの種類と数の本があるというのに、借りるときには、カードのバーコードを読み取るだけで終わってしまう。私達がその際一円も払わずに済むのは税金のおかげだからだ。

早速図書館について調べてみようと思い、インターネットの検索欄に文字を打つ。すると、検索予測に「図書館、税金の無駄」と出てきた。私はなぜそう思うのだろうかと残念に思ってしまった。考えてみると理由もわかる。本が好きでない人、図書館を全く利用しない人から考えれば、なぜ自分達には必要ないのに税金を使うんだ、図書館なんて建てたって意味がない、そうってしまうだろう。

だが私は図書館を調べるうちに、図書館が無くなることは、世界の様々な知識や文化、日本の知識や文化を正しく伝えられる機関が無くなることと同じことなのではないかと思うようになった。図書館法という法律では、図書館という場所は「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」とされている。私が利用する図書館では、CDやDVDも貸出されている。これは世界の文化を知ってもらうためのものだろう。物語から実用書まで、全ての本に新しい発見があるのではと思う。

このような役割を持つ図書館が無くなればどうなるのだろうか。すぐに大きな影響は無いかもしれないが、日本や世界の情報が気軽に手に入りにくくなったり、本を読まない人が増え、結果、読解力や知識の量などが低下してしまうのではないだろうか。図書館は多くの人が広い視野を持ったり、勉学、将来への助けになったりする場所だろう。

他にも私達の周りには、消防の方たちの消火活動や警察の防犯活動、救急車の迅速な対応、道路整備などの公共サービスや、公園、市立病院、学校などの公共施設が沢山ある。これらももし無くなったら、私達の町は、犯罪や事故、火災が多発し、病気の人が増え、さらにしっかりとした教育も受けられなくなる。大げさになるが、未来どころではないほど荒れてしまうのではないか。

確かに自分が使わないものにお金が使われることは無駄に思えるかもしれないし、それがなくとも直接影響はないかもしれない。しかし、私達はいつの間にか税金に助けられているし、これから助けられるかもしれない。だからこそ、このことを忘れず生活していこうと思う。そのような意識で勉強し、本を読み、そして楽しみながら、学んだことをどう使うかを考えていく。私は思う。税金の無駄は無い、全てが未来のためなのだ。

「大規模断水から学ぶ大切なもの」

静岡市立清水小島中学校2年 稲葉 圭亮

税金についてのニュースや社会の授業を通じて「税金を納めることは国民の義務である」と聞いたことがあります。ただ、私は今まで税金を身近に感じたことが無く、税について詳しくは知りませんでした。そこで、この作文を書くことをきっかけに、税金について少し調べてみました。

まず、税金はどのようなことに使われているのでしょうか。税金は、ライフラインの整備や医療の費用、公共の仕事に就く人達の給料などに使われています。改めて考えてみると、どれも私達の生活に深く関係していることに気づきます。

思い起こせば二年前、私が住んでいる地域に台風十五号が直撃しました。その影響によって、川の上流の水道管が流されてしまい、地域全体で大規模な断水が発生しました。断水期間中は、トイレを使うために山の水をくみに行ったり、洗濯をするためにコインランドリーに通ったりしました。近所の人達は、給水車に水をくみに行っていました。二週間後、「この生活はいつまで続くのだろう」と不安に思っていると、行政の方々の対応によって新しい水道管が取り付けられました。私の家の蛇口から、またいつものように水が出るようになりました。もし、税金がなかったとしたらどうなっていたでしょうか。復旧費用が集まらず、今もなお断水が続いていたかもしれません。私の日常は税金に支えられていたのです。

税金は医療費にも使われています。私は、中学一年生の時に人生で初めて足を骨折しました。診察や処置、検査などにはたくさんの費用がかかったと思います。しかし、私は通院の度に五百円で先生に診察していただくことができました。もし、税金がなかったら、費用が高額になっても自分で負担する必要があります。親の収入に関係なく、子供たちが必要な治療を受けられるよう、税金は使われていたのです。

税金は公共の仕事に就く人達の給料を払うことにも利用されています。給料がもらえなければ、公務員と言われる方々や公立学校の先生方、消防士の方々は生活することができません。つまり、税金がないと、授業を受けられなくなったり、火事が起きてもお金が払えず火を消してもらえなくなったり、みんなが安心・安全に過ごしていくことができなくなるのです。

このように、税金は私達の生活に深く関わり、なくてはならない大切なものです。今回の学びを通して、自分自身、税を納める責任が強まったことを実感しています。将来、私が大人になって税金を納める立場になった時には、自分だけでなく、共に生活する人達、特に高齢者など自力で生活できなくなった人達などを支えていけるような人間になりたいです。

「税金の種」

学校法人星美学園静岡サレジオ中学校3年 伊藤 心

中学生にとって一番身近にある税金は消費税だと思うが、誰しも一度は消費税をなぜ払わなければいけないのか、消費税がなければもっと安く買えるのと思ったことはあるだろう。私にも少しある。数年前に消費税が十パーセントになり、その前は八パーセント、平成になって初めて導入されたときはまだわずか三パーセントだった。だんだん消費税が上がっていった理由として、少子高齢化が挙げられる。社会保障の費用は増え続けていて、高齢者や子育て家庭のために安定的な財源を確保する必要があったからだということらしい。

税金は日本社会を成り立たせる上で重要なものだということが分かったが、もし税金がなくなったらどうなるのだろう。そもそも税金は、医療や教育、道路の整備や警察、消防などのために使われている。どれについてもとても重要だが、一番身近である教育についてを例に挙げる。教育の中でも税金は色々なところに使われている。学校の校舎、机や椅子、教科書、パソコン、実験道具など様々だ。一年間で中学校の生徒一人当たりに使われる税金は百万近くになるという。もしそこに税金が使われなくなると、教科書やパソコンなど、学校に通うために必要なものは全て自分で買わなければいけないことになる。学校の校舎などを新しくするときなども、学校の手には負えない金額の分はその学校に通う生徒の家庭が負担しなければならないかもしれない。そうなると、子供たち全員が安心して勉強ができなくなると思う。収入が安定していない家庭だったら、払えなくて勉強がそもそもできないということも有り得るかもしれない。税金がなくなるということは、これだけ深刻な問題を引き起こすということが分かった。だから税金があることで、私たちの学校生活が有意義なものになっていると改めて思った。

税金は、植物が成長する前段階である種に過ぎないと私は思う。その種をどこにどのくらい植えるのか、どのように育てるのかということが大切だと思う。つまり、集めた税金をどのような場面でどれだけ使うか、そして具体的にどう使うのかが重要だということだ。だからその配分を間違えてしまうと、本当に使わなければいけないところに行き届かなくなり、成り立たなくなってしまうかもしれない。私たちは直接的に税金の使い道を決めることはできない。だからこそ、課せられた税金をしっかりと納めるということが当たり前だが重要だ。税金という種を実らせるには、国民全員が協力することが大切だと思う。

「踏み出そう小さな一歩」

静岡市立清水第八中学校 1年 白鳥 星来

買い物に行くと、税込表示が目につく。私はいつも、消費税がなければ、私の財布がこんなに小銭でいっぱいになることはないのと思っていた。どうして、消費税を払わなければいけないのか、私は税に対してあまり良いイメージをもっていなかった。

税って何のためにあるんだろう。もやもやしていた時、高熱を出して病院へ行った。診察して、薬をもらった。母が支払ったのは、五百円だった。ずっと気にしていなかったけど、医療費ってなぜ五百円だけなんだろう。ずっと頭の中で気になって、元気になった時調べてみた。

受診する時、静岡市子ども医療費受給者証を提示する。いつも何気なく出していたけど、これのおかげで、0歳から高校三年生まで、通院一回五百円の自己負担で医療を受けることができる。そして、子ども医療費助成制度の財源が税金だと調べて初めて知った。すごく驚いて、母に医療費と税金の話をした。母はうなずきながら、小さい頃入院した時も、助けてもらったんだよと教えてくれた。

三歳の時、RSウイルスにかかって呼吸困難になり、数週間入院した。私は写真で病院にいる自分を見たことがあった。母は、私が完治した時、どれだけお金がかかるのかすごく不安になったと言った。でも、この子ども医療費助成制度のおかげで、自己負担は食事の負担額だけだったそうだ。あんなに嫌だと思っていた税金に、私は何度も助けられていた。父や母だけでなく、全く知らない人が支払った税金に、私は助けられていたんだ。この事実が、私の考えを少しずつ変えた。

調べを進めると、医療費の他に、年をとり体が思うように動かなくなった時などの介護費用、年金、私たちが毎日使う水に関わる上下水道の整備も税金が使われていた。私が使用している教科書も、税金と知り、驚いた。そして、たくさんの人の命を救ってくれる救急車も、税金なしでは搬送できないということを知った。私の生活に、税は密接に関わっているのだ。

今まで、消費税という身近な税金に、なければいいのにと、マイナスイメージしか持っていなかった。でも、私は何度も税に助けられ、今生きている。消費税という少ない税金でも、たくさんの人が、支払うことで大きな力になっていく。私も、誰かの力になれるだろうか。そう考えたら、税金を払うことも、プラスのイメージに変えられそうな気がする。いつか、きちんと納税できる人になるために、私は、自分にできる小さな一歩を踏み出そうと思う。

「大好きな図書館は税金のかたまりでした」

静岡県立清水南高等学校中等部1年 八木橋 実寿

皆さんは家や学校の傍に図書館はありますか？私は家から徒歩五分の場所に図書館があり、小学生の頃は毎週のように本を借りに行きました。市内の他館から取り寄せて借りることもあり、よく母から「図書館の本は税金で買ってもらっているからたくさん活用するといひよ」と言われていました。

小学生の頃はどのようにして図書館の本が無料で借りられるのかなど疑問に思ったこともなかったのですが、最近ある漫画からその仕組みを学ぶことができました。その漫画は「税金で買った本」です。主人公の石平くんは十年前借りた本を返却していなかったことから図書館でアルバイトをすることになるというストーリーです。その漫画の中に「図書は皆様の税金で買った市民の財産です」というセリフがあります。

そこで私は、自分の住んでいる市ではどうだろうかと調べてみました。静岡市内に市立図書館は十館あり、蔵書数は人口千人あたりで約二八三六冊と政令市上位を誇っていることが分かりました。市民プールや体育館などのスポーツ施設は有料のところが多いのに、図書館は入館料もかからず、また、一人最大十冊借りても、新着図書でも、CDや雑誌でも無料で借りることができます。世間的には時代の変化に対応させるべく、施設利用を有料にしてはどうかとの意見もあるそうですが、図書館法第十七条で「公立図書館は入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない」と規定されており、現在のところ市民のだれもが無償でこのサービスを使えるようになっています。

これらのことから、図書館の本は誰でも無料で読んだり、借りることができるので、今後大切に読もうと思いました。また、本ばかりでなく、施設のための光熱費、備品の管理などにも税金が使用されていることを知りました。

私は今まで税といえば仕組みも難しく、納税している大人だけが分かっていたらいいと思っていました。しかし、調べていくうちに生活の中で利用するものに使われており、身近に感じることができました。具体的に言うなら、税金には住民税、所得税、法人税などたくさんの種類が存在すること、そしてそれらは市民の生活に密着し、姿をかえてサービスとして戻ってきていること。今回、色々なことを知り、税金ってありがたいなという感謝の気持ちを改めて持つことができました。

少子高齢化といわれる将来、私達はどのように税をおさめ、サービスを受けられるのでしょうか。税金が支えてくれていると、とても住みやすい環境となり、安心した生活が続けられます。これから私達が考えていかななくてはならない課題や向き合っていかななくてはならない課題を見つけるために、今日も私はせっせと図書館に通い、色々な本に学ばせてもらおうと思っています。

「税の歴史～平等から公平へ～」

静岡市立由比中学校2年 古牧 寛平

僕は、税の歴史について調べて、税の納め方が、「平等」から「公平」に移り変わったことを知りました。

税の始まりは、弥生時代に、より強く、まとまった国づくりを目的に、人々が穀物や賦役を捧げたことと言われています。

飛鳥時代には大宝律令で租庸調という税の基本が作られました。租は、性別や身分に関わらず、米の収穫量の約三％を納めることです。庸は、都での労働もしくは布などを納めることです。調は、農民たちの地域の特産物を都に納めることです。

もし、僕がこの時代の農民だったら、父と僕は都での労働、母と弟は米作りをして米を納めなくてはなりません。僕の家族の負担はとて大きくなります。怪我や病気をしても税を平等に納めなくてはならないからです。

安土桃山時代には、豊臣秀吉が太閤検地を行いました。太閤検地とは、田畑の面積の単位を統一した上で、全国一律の方法で土地の面積を測った政策です。また、穀物の量を量るマスも統一しました。このようにして税を免れる不正が起きない工夫をしました。土地の条件や状態を調べて、生産力をランク分けし、土地と農民の名簿を作り、誰がどれくらい税を納めることができるかを明らかにしました。この頃の納税の目的は、戦をする武士の食料や戦で使う武器を買うことです。弥生時代に比べて、公平な税の制度を作る工夫がされていると感じます。

江戸時代になると、太閤検地の仕組みを引き継ぎ、さらに、役人が農民を見て回り、どれくらい生産できたかチェックをして、誰がどれくらい税を納めるか決めていました。現代で行っている、収入を申告して税金を納める方法に近い制度が江戸時代に考えられており、江戸幕府の有能さを再確認できると感じました。この頃から、税に対して、公平の考え方が広まったそうです。

現代の税の仕組みは、収入の多い人は多く納め、病気や怪我、家族の状況によって納めることができない人は、税を減らすようになっています。

税の考え方が、「平等」から「公平」に変わったことで、もし、親が病気などで働くことができなくなったときでも、納税のために苦しまず、学校に通ったり、病院にかかったりすることができます。僕が将来、税金を納める立場になった時も、正しく税金を納めたいと思いました。

「税のサイクル」

学校法人星美学園静岡サレジオ中学校3年 池島 志来

「日帰り温泉料金改定のお知らせ」

私はこの見出しを見てとても驚いた。今まであんなにお得に入れていたのに。そう思っていたからこそ値上げに納得するのも無理はなかった。私が住んでいるところから車を走らせて15分、日帰り温泉を提供している宿泊施設がある。そこではなんと50円で温泉に入ることができたのだ。しかし、物価高や水光熱費の上昇、人件費の高騰などの影響によりある時から値上げ。日帰り温泉を利用するには500円払わなければいけなくなったのだ。500円でも他の日帰り温泉に比べれば安く感じるが、元の値段が50円で、家族で頻繁に利用していたために値上がりの方がさらにきつく感じた。

私が価格改定のホームページを見てふと目に留まったのは「入湯税を含む」という文だ。入湯税とは「入湯施設の利用と市町村の行政サービスとの関連に着目し、鉱泉浴場所在の市町村が課する目的税」で、温泉、鉱泉浴場の経営者等が、利用者に対して料金とともに徴収し、その徴収した税金を市町村に納めるという制度だった。課税額は市町村ごとに自由に決めていいということが気になり調べてみると、私が行っていた温泉のある町が定めた入湯税は宿泊で一泊150円、日帰りで50円だった。そして私は50円で温泉に入れるというのは入湯税しか払っていない、ということに衝撃を受けた。

入湯税には主に4つの使い道がある。「環境衛生施設の整備」「鉱泉源の保護管理施設の整備」「消防施設その他消防活動に必要な施設の整備」「観光の振興」の4つだ。観光客や常連客が温泉を利用する。そうすることで、入湯税が入り、観光資源に活用される。そして観光客がまた増える。このサイクルは、温泉の多い日本にとって、観光業に大きく貢献すると私は考えた。

税金は何かと嫌がられることが多い。一方で、私達の生活に負担はかかる分、困ったときに助けてくれるのもまた税金だ。そんなことをわかっていながらも、中々税金に助けてもらっているという感覚は少なくなってしまう。私も税金に良い印象を持ったことはあまりなかった。しかし、入湯税という普段はあまり意識しない税金について考えてみたことにより、なぜ税金が私達の生活の色々なところにあるのか理解できたような気がした。そして、税金を否定する前に、制度や利益、私達の生活に与える影響について知ることから始めなければいけないと感じた。

「税金がない世界」

学校法人星美学園静岡サレジオ中学校3年 杉山 珠貴

もしも税金がなかったら、私達の生活にどんなことが起こるのか。生活していく中で、税金による国民や企業の負担が大きいのを新聞やニュースでよく見る。いわゆる増税によるものだろう。そんな増税が目につく中、私は税金の必要性について考えてみる。税金は私達の身近な沢山のものに使われているが、ここでは2つを例に考えてみる。

一つ目は、誰もが安心して学べる教育環境だ。主に学校の建設や、義務教育期間中の無償の教科書配付が挙げられる。この無償の教科書の配付には、国民全体に次の代を担う子供たちへの願いや思いが込められていると思う。税金がなかったら、これらの費用をまかなえなくなる。教育のための費用を子供たちの家族などが負担しなくてはならないので、負担が重くなってしまう。現在、少子高齢化の問題がある。この原因を調べていくと、子育てにお金がかかりすぎるといのが原因として大きいことが分かった。高校あるいは大学などの費用も考えると、さらに負担が増えるのは、より少子高齢化が進むことになりかねない。

二つ目は、生活や福祉の充実だ。医療、年金、介護、子育てなど私達が安心して生活していくための公共サービスを行っている。税金がなかったら、お年寄りや体の不自由な人などのための施設や保育所の設置、医療関係の整備などが十分に行われない。そのため、困ったときに頼ることができなくなる。病気になったり、年をとって働けなくなったりしても、自分たちの備えだけで生活しなくてはならないため、安心して生活することが難しくなってしまう。今は年金というものがあるが、これがいかに大事かが分かる。

私が今回税金のない世界について考えてみて、税金は私達の身近なものにあり、すごく大切な役割を果たしていることを知った。自分が日頃払っている消費税が、こんなにも多くの必要なことに使われているということが分かり、税金の必要性を理解することができた。しかし、長寿化や少子高齢化などにより六十五歳以上の高齢者約一人を支える世代の負担が大きくなってしまふことが予想されている。今のままの税のしくみでは、私達の生活を支えることが難しくなっていく。もう少ししたら、私達も支える世代になる。誰もが暮らしやすい社会にするためにも、この課題に目を背けず、私達一人一人が税金について知り、考えることが大切だと思う。そして、自分が六十五歳以上の支えられる側になったときには、支える側も支えられる側も無理なく、安心して生活できるような社会になっていることを願っている。

「私たちの生活と税金」

静岡市立由比中学校3年 寺田 梨暖

私たちの生活のまわりには実は知らないところで、税金が使われています。先日病院を受診した際、医療費が五百円だったので、これについて色々調べていました。すると、子供の医療費負担制度は、地方自治体が税金を使い、住民にサービスをしているものだと分かりました。子育て世代にとってはとてもありがたい制度だと思いましたが、これも住民全体の負担により成り立っていることを忘れてはいけなかったと思います。

他にも、私たちの生活を支えている税金はたくさんあります。例えば、顔を洗ったり、歯を磨いたりすることができているのは、税金により上下水道の整備がされているからです。また、学校設備の維持や運営、授業料、教科書代等全ての小中学生が平等に義務教育を受けられるよう、国民から徴収された税金が基盤となり、私たちの生活を支えています。そう考えると、もう一度税金の役割を理解し、感謝すると共に、大切に使わなければいけないという気持ちになります。

また、私が住んでいる町、由比でも国の税金を使用して、薩埵峠の地滑り対策が行われています。由比は、昔から多くの土砂災害に見舞われてきており、昭和四十九年の七夕豪雨による地滑りでは、多くの被害を受けました。由比は交通網が多く、東名高速道路や国道などがあり、もし地滑りが起きてしまったら、東名高速道路や、国道一号線が通行止めになり、新東名や国道五十二号線を迂回することになります。結果的に、迂回ルートに車両が集中してしまい、道が渋滞することで、交通網や物資運搬手段等がまひしてしまいます。それを防ぐためにもこの薩埵峠の地滑り対策が必要となります。

このように、税金は人々の生活を支えるために至る所で使用されています。税金は少ない方がいい、いらぬというように考える人もいますが、税金がなかったら、生活に必要な水や道路などが使えなくなってしまうたり、学校にも通うことができなくなってしまう可能性があります。生活の不便さというものをなくすためにも、税金は、必要不可欠なものです。この日本で快適に生きていくためにも、国民全体がその必要性和重要性をもっと理解し、学びを深めることが大切であると考えます。納税についての情報を積極的にしていくことが、よりよい社会につながっていくと思います。

「税金と私たちのつながり」

静岡市立清水第一中学校3年 山田 悠愛

私の母は車を買うと税金がたくさんかかってしまうため、車を買うより交通機関を使う方がお金がかからないので良いと言っていました。なぜそんなに税金がかかってしまうのか、税金について調べてみることにしました。税金には様々な種類があり、主に多く払われているのは消費税、所得税、法人税といわれています。その中でも消費税は、税収が景気などの変化に対して左右されにくく、企業経済活動にも中立的であるため、社会保障の安定財源として適していることが分かりました。

私が風邪をひいてしまい病院に行ってしまった時、子供は医療費を払わなくてもいいことに気がつきました。そこで私は病院から提供された薬や診断料などのお金はどこからきたものなのか、不思議に思いました。他にも日本全国の小・中学校で使われている教科書は全て無料であることに最近気がつきました。これらの財源は税収であることが分かりました。

税金について調べるまではあまり良いイメージがありませんでした。例えば、消費税の税率が10%に上がる時も、テレビなどで反対意見を言っている人がたくさんいました。消費税だけでなく税金が少し高くなるだけでも声高に反対を叫ぶ人が大勢います。そういったニュースなどを見聞きしていたので、税金に対してマイナスのイメージがあったのだと思います。けれども、調べてみると税金は私たちの生活の様々な場面で使われていることが分かりました。例えば、年金・医療などの社会保障、教育・警察・防衛などの公的サービスを運営するための費用、水道・道路などの社会資本整備などです。

私の祖父母はすでに仕事を辞めて年金で生活しています。そして私が遊びに行くとお小遣いがもらえます。新東名が開通してからは、祖父母の家に行くのも、とても楽になりました。これも税金のお陰です。一昨年豪雨による断水の時はとても大変でした。その時は遠くの市町村から給水車が来てくれたので、とてもありがたかったです。こういったことも税金があるからできるのだと思います。

私は将来歯科衛生士になりたいと思っています。そのために中学校卒業後高校、大学へと進学するつもりです。高校や大学には、税金から補助金が出ています。私たちが好きなことを勉強できるのは税金があるからです。

このように、税金があることで私たちの生活は豊かになっています。もし税金がなくなってしまうと、たちまち治安が悪くなり、勉強どころではなくなると思います。納税は国民の義務です。けれども義務だから納税するという気持ちではなく、税に対して正しい知識をもって、納税することが大切だと思います。これから大人になって納税する立場になった時に、この気持ちを忘れずに正しく納税していきたいと思いました。

「より良い社会を作るために」

静岡市立清水第六中学校3年 池上 心菜

もし、税金がなくなったらどうなるのか。税金に対して不満を言っている人がいたり、ニュースで「増税」という単語を聞いたりするとき、負担などのあまり良くないことが強調されている気がします。では、税金がなくなれば負担が減り楽になるのか、生活にどのような影響を及ぼすのか、と興味を持ち調べてみると、税金がなくなると様々なデメリットがあることがわかりました。

まず、学校ではどうなるのかを調べました。税金がなくなると、教科書やパソコン、実験器具や体育用具、授業料などを自分たちで負担しなければならないため、家計の負担が増えてしまいます。普段何気なく使っているものが、税金がなくなると当たり前に使えなくなったり、負担金額が増えることで、学校に通うことが難しくなったりするかもしれないと思うと、税金のありがたさを感じました。また、教科書の裏には「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書いてあります。私は、無償で使わせていただいていることに感謝して大切に使い、勉強を頑張ろうと思いました。

次に、街の様子がどうなるのかを調べました。まず、道路や橋が壊れても、税金がないと修理をするお金がないので、そのまま放置されてしまいます。修理してくれる人がいたとしても、その人から通行料の支払いを求められることもあるかもしれません。そして、交番、消防車、救急車など様々なものが有料化してしまいます。火事が起こったり、交通事故やトラブルに巻き込まれたりしても、費用を気にせず利用することができなくなってしまいます。また、お年寄りや体の不自由な人のための施設や保健所の設置、医療機関の整備などが十分に行われず、困ったときに頼ることができなくなってしまうため、安心して生活することが難しくなってしまいます。他にも、ゴミ収集車が来ないためゴミが街に溢れ、不衛生になったり、犯罪の取り締まりが行われず、治安が乱れたりしてしまいます。

調べてみると、税金があることによって私達の生活が支えられていること、税金がなくなると多くの負担を負うことになることがわかりました。普段当たり前のように使っている学校のものや公共サービスが、当たり前ではなくなると思うと、税金の大切さやありがたさを感じました。税金はみんなが互いに支え合い、共により良い社会を作っていくために必要不可欠であると思いました。また、大人になると納税額が増え、負担が多くなります。ですが、より良い社会を作るためだと思えば、少しは心の負担が減ると思いました。